異分野交流で価値創造

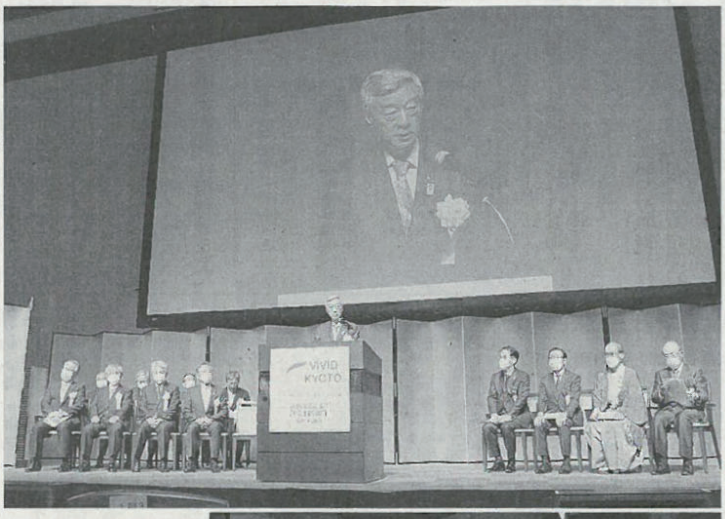
京商、創立140年式典と交流会

京都商工会議所は28日、創立140周年を祝う記念式典とアニバーサリー交流会を京都市左京区の国立京都国際会館で開いた。「これからの10年」をテーマに、出席者が新型コロナウイルス禍の収束後を見据え、異分野との交流や、協業を通じた新しい価値創造の推進を誓った。会場では、インターネット上の仮想空間「メタバース」の関連技術など先進的な会員企業のビジネスも紹介された。

記念式典には、三村明夫日本商工会議所会頭、西脇隆俊京都府知事、門川大作京都市長や地元選出の国会議員らも出席した。京商の塚本能交会頭が冒頭にあいさつし、「長引くコロナ禍やウクライナ情勢の悪化などでこれまで経験したことのない厳しい経営環境が続いている。改めて京都が誇る先取の精神をもって、京都の産業を進化させていく必要がある」と語った。

物故者の追悼では、2020年4月に新型コロナ感染で亡くなった立石義雄前会頭と、今年8月に亡くなった稲盛和夫元会頭の写真がスクリーンに映し出され、出席者が黙とうをささげた。

その後、記念事業を手掛ける特別委員会の石原義清副委員長が登壇し、「京都の産業の多様性を生かし、学術、文化、宗教など異なる分野との対話や交流を活発に行い、連携・協業により新しい価値を創造する」などとする式典宣言を発表した。



上京都商工会議所の創立140周年記念式典であいさつする塚本会頭＝京都市左京区・国立京都国際会館下アニバーサリー交流会の会場には会員企業の先進的な製品などが並んだ

メタバース事業も紹介

アニバーサリー交流会には多彩なコーナーが設けられ、各企業が自社の取り組みをアピールした。「DX・デジタル」コーナーのエスユーエスのブースでは、来場者がVR(仮想現実)ゴーグルなどを装着し、製品レビューや交通事故を疑似体験した。同社子会社のクロスリアリティ(下京区)は、メタバース内の会場でアバター(分身)を使ったイベントなどが開催できるサービスを紹介した。

スタートアップのコーナーでは、ゲノム編集技術で魚介類の品種改良を進めるリージョナルフィッシュ(左京区)が可食部が多いマダイのカツバーガーを、昆虫由来の食品開発を手掛けるBugMo(バグモ、上京区)がコオロギを素材にしたスープやあられを、それぞれ販売した。

会員企業の取り組みを紹介するパネル展示もあり、約千人の来場者でにぎわった。(笹井勇佑)

「これからの京都」展望

京都商工会議所が28日に京都市左京区の国立京都国際会館で開いた創立140周年記念のアニバーサリー交流会では、次世代を担う若手経営者と老舗企業の女将が京都の未来を展望した。

「これからの京都について考える」をテーマにしたトークセッションで、不動産管理会社フラットエージェンシー(京都市北区)の社長吉田創一さんと京菓子老舗、笹屋伊織(南区)の女将田丸みゆきさんが参加した。

吉田さんは京都の魅力について「人と人とのつながりを大事にする文化がある」と語り、自社で保全活用に取り組んでいる京町家が昔から地域のつながりを生んできたと説明した。京都に創業100年を超える企業が多いことにも触れ「地域のつながりからイノベーションが生まれているのではないか」と推察した。

田丸さんは、今後京都で変えていくべき点を問われ、人口減少などの課題を指摘した上で「京都に住みたいと思う人を増やさないといけない」と強調した。地蔵盆などの地域文化を後世に伝える大切さを説き「伝統的な文化や暮らしを取り入れた京都ならではの学校教育を進めてほしい」と期待を込めた。(田中俊太郎)

京都の未来について語り合うフラットエージェンシーの吉田社長(左)と笹屋伊織女将の田丸さん＝京都市左京区・国立京都国際会館

若手経営者と老舗の女将討論